

世界中で話題をさらった青春映画の傑作 『彼の見つめる先に』

中山 秀一



この映画は、2014年の「SKIP シティ国際Dシネマ映画祭」で「脚本賞」を受賞した作品である。筆者はこの映画祭を毎年取材しており、見応えのある作品と出会うのを楽しみにしている。この『彼の見つめる先に』は、その数少ない日本公開作品のひとつである。

この映画の製作国はブラジルで、作品の舞台はサンパウロの高級住宅街に住む盲目のレオナルドとその家族、そして彼が通う地元高校の教室とキャンパスが中心である。広大な国土を持つブラジル、この映画でレオが通う高校は、大学のキャンパスのような広くて美しい恵まれた環境にある。

映画はこの美しい環境のもとで、思春期の生徒たちが織りなす多感な日常を描いた「青春グラフィティ」となっている。内容的には数々のエピソードで構成されるが、最終的には盲目のレオが、親切な男子生徒ガブリエルと同性愛に目覚めることになる。

3月10日(土)より
新宿シネマカリテほか全国順次公開

この映画では、高校の教室に、レオナルドという全盲の生徒が、健常者と共存して勉強している。海外では、このような教室が実際にあるようだが、日本では聞いたことがない。あるいはこの共存教室は演出上の設定かもしれない。ダニエル・ヒベイロ監督は、このように豊かな美しい環境のもとで、思春期の多感な高校生たちの理想郷を描きたかったように思える。その点でも興味深い作品だ。

また高校生の生活描写で、ウオッカなど強い酒を飲むシーンがたびたび出てくるが、これも日本の高校では考えられないことだ。この映画でもご多分に漏れず、全盲のレオと仲良しのジョヴァンナをからかうグループはいるが、偏見による陰湿な「いじめ」ではなく、むしろ明るくてユーモラスに描いている。

この高校に通う生徒の家庭には、金持ちが多いようで、登下校に毎日レオの手を取って付き添ってくれる、幼友達のジョヴァンナの家にはプールがあり、クラスメイトが遊びに訪れる。

転校生のガブリエルに熱を上げているカーリーナは、クラスメイト全員を自宅に呼んでパーティを開くほどの家で、DJによるパーティが出来るような機材設備も備えている。

☆エピソード

レオの両親は、目の見えない息子に対して、当然ながら過保護で、いつまでも幼い子供のように心配している。しかしレオもデリケートな思春期で、反抗期でもあり、自立心も旺盛である。あるとき、交換留学生としてアメリカに行きたいと言い出して、両親とお婆ちゃんを困惑させる。

教室では最前列の左側がレオの席だが、点字のタイプライターを使って先生の講義を打ち込むので、カチャカチャと音が出る。生徒はその音を嫌ってレオの後ろの席は常に空席だ。

そこにガブリエルが転校生として現れるが、彼は知らずにレオの後ろの空席に座る。しかし、レオの発するタイプのノイズを気にすることもなく、好奇心旺盛で色々とレオに話しかけてくる。レオとの初顔合わせだ。

この転校生ガブリエルは、カールした髪の毛が可愛らしいと、女子生徒の間で話題となり、特に金持ち娘のカーリーナが首っただけである。しかしガブリエルはカーリーナよりもレオのほうに興味があるようだ。彼はレオを自転車に乗せたり、映画館に誘ったり、月食の日には丘の上に連れて行き、一緒に鑑賞して月食の原理などをレオに説明する。見えないレオだが、鋭敏な感覚で雰囲気を感じ取り、こ

の体験に感激する。

課外学習のキャンプの日がやって来た。一同がバスに乗って出かける泊りがけの楽しいイベントだ。池で課題の生物採集をしたり、テント内に気の合った者同士が入ってお喋りをして、酒を飲んだり、学校を離れて開放感を満喫する。そこには立派なプールがあり、レオとガブリエルは泳いだ後に全裸でシャワーを浴びるが、ここでガブリエルはレオに同性愛を感じる。

☆微笑ましい恋の駆け引き

この映画では、レオに関わる恋の駆け引きが、三角関係ならぬ四角関係で進行する。そのくだりを、かなりの時間を割いて、きめ細かく描写しており、この映画の見どころでもある。その恋の駆け引きは、何といてもまだ高校生である。思春期らしく素直で微笑ましい会話だ。

その四角関係とは、ジョヴァンナはレオの幼馴染だが年ごろの娘である。レオが好きで、キスをしてくれるのを期待している。そこに転校生のガブリエルが登場して、レオの気持ちも、ジョヴァンナからガブリエルに移りはじめる。ガブリエルには、金持ち娘のカリーナが熱をあげている。ジョヴァンナはカリーナの遠慮がない自己本位の行動を嫌っている。

ある日、金持ち娘のカリーナがホームパーティを開き、レオも参加した。高校生のくせにみな酒を飲んでいる。男女がキスのチャンスを得られるボトル回しゲームでは、目の見えないレオに子犬とキスさせようと企んだが、寸前のところでジョヴァンナがレオを奪い取って助けた。しかしレオはせっかくのキスのチャンスを、ジョヴァンナが嫉妬のあまり妨害したと誤解してしまう。

☆ダニエル・ヒベロ監督

脚本も担当したダニエル・ヒベロ監督は、サンパウロ出身で31歳という若手監督。長編としては、2014年製作のこの作品がデビュー作で、同年の第64回ベルリン国際映画祭等々を受賞。それ以前には短編で多くの賞を受賞している。今回の作品は「盲目の少年の性のめざめ」をテーマにしているとコメントしている。

☆日本では想像もつかない美しいキャンパス、そこで織りなす高校生たちの日常と恋愛模様、それを美しく初々しく描いた映像は一見の価値あり、ぜひ映画館に足を運んでいただきたい。



この映画の主演レオナルドは全盲の高校生で、健常者の俳優が盲人を演じている。その素直な演技は、役者臭さや嫌味がなく、本当の盲人が演じているようで、観る者に爽やかさを感じさせる。



幼なじみで仲好しのジョヴァンナは、登下校のときには何時も手を取ってレオを自宅まで送り届けるが、彼女はレオに友情以上の感情を抱いている。そこに転入生のガブリエルが現れ、盲人を意識しない彼の性格にレオが魅かれるようになる。



レオは自分の部屋にガブリエルを招いて学校の勉強をしたり、音楽を聞いたり、二人だけで過ごす時間を楽しむことが多くなった。彼は健常者と同じように接してくれる素直なガブリエルに、友情を超えた感情を抱くようになる。

Syuichi Nakayama
日本映画テレビ技術協会名誉会員